

レファレンス (reference) で図書館を使おう!

「レファレンスサービス」という言葉をご存じでしょうか？

日本語では、「参考調査」とか「参考業務」などと訳されています。福島県立図書館では、「調査相談」という言葉で専用のカウンターを設けていますので、目にした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

それでは、レファレンスサービスとはいったい何でしょうか？

図書館の使命は、皆さんが必要としている情報をいかに提供するのかということになります。その方法は様々で、書架に図書を体系的に排架し、自由に閲覧できる環境を整備することもそうですし、時間の無い方には、空いている時間に図書を利用してもらうための貸出もそうです。そしてこの閲覧・貸出と両輪を成すのがレファレンスサービスであるわけです。図書館にとっては、情報提供の重要な仕事と言えます。

その仕事の説明としては、富士大学の斎藤文雄先生が提唱された「調べもの、探しもの、お手伝いします」という言葉がもっとも分かりやすい解説であるとされています。図書やその検索方法に長けた図書館の職員が、皆さんの調べもののお手伝いをする仕事です。このサービスは、図書館である以上日常的に存在するものです。しかしながら、貸出などとは異なり、まだまだ一般的なサービスとして知られてはいないというのが現実です。

今回は、当館に寄せられたレファレンスの事例をご紹介します。「こんなことも調べられる便利な図書館」についてご案内します。

私たちは日常生活の中で、ふと、「これってどうなんだろう？」と思うことがあります。そのようなふとした疑問の解決にも、図書館はお手伝いをします。

Q:「鶴ヶ城から磐梯山は見えるのだろうか？」

A:『鶴ヶ城』(会津若松市観光公社編 1992)に、本丸から見た鉄門(くろがねもん)の掲載写真があり、その後ろに磐梯山が確認できる。また、『鶴ヶ城を歩く』(佐藤恒夫著 1998)には、五層の展望台より磐梯山が展望できる旨の記載がある。

* 地元の人にとっては何でもないことかもしれませんが、離れた所の人にとっては疑問となります。図書館では、所蔵する資料の中から必要な情報を探し出します。

Q:「ハンドボールのシュートの速度はどれくらいだろう？」

A:『現代体育・スポーツ体系 26巻』(浅見俊雄編 1984)のハンドボールの事項に、「ランニングシュート: 25m/秒=時速90km ジャンプシュート: 23m/秒=時速82.8km」の記載あり。

Q:「サンタクロースの櫓を引いているトナカイに名前はあるのか？」

A:『サンタクロース学入門』(荻原雄一著 1997)等によると、近代サンタクロース像を作ったのは、クレメント・ムーアの詩『クリスマスのまえのぼん』(1980)であり、8頭のトナカイに名前を付けた旨の記述があったため現物を確認。Dasher・Dancer・Prancer・Vixen・Comet・Cupid・Donder・Blitzenと判明。

また、「以前は知っていたのに思い出せない。」といったこともよくあります。歌詞に関するものなどはい例です。

Q : 「歌い出しが“好花不常花”で始まる歌の歌詞とタイトルが知りたい。李香蘭らしい。」

A : 『新版 日本流行歌史 中』(古茂田信男編 1995)の中に歌詞を発見。タイトルは“何日君再来 (ホーリー・チン・ツァイイ)”と判明。また、日本語歌詞により“いつの日君来るや”として、渡辺はま子が歌ったともある。

Q : 「“野口英世の歌”の歌詞が知りたい。土井晩翠作詞の「会津若松白虎隊…」ではなく、「磐梯山の動かない…」で始まるもの。」

A : 『野口英世 人類のために フォトドキュメンタリー』(野口英世記念会編 1996)の中に、文部省唱歌・初等科音楽 二「野口英世」として、歌詞とともに楽譜の掲載あり。

ご自分が興味を持たれている分野に関する質問も数多くあります。

Q : 「ピカソの“ゲルニカ”の下絵をカラーで見たい。」

A : 『西洋美術作品レファレンス事典 絵画編 19世紀印象派以降』(日外アソシエーツ編 2005)より、『世界美術全集 37』(角川書店 1961)に当たるも白黒。その後、『ピカソ全集 5 幻想の時代』(講談社 1981)にカラーを発見。

Q : 「四つ葉のクローバーを集めているが、なぜ持つと幸せになれると言うのか？」

A : 『花ものがたり 冬』(立原えりか文 1993)の中に掲載されている、「昔、ヨーロッパの騎士が、命を救ってくれた女神にお礼として差し出したのがクローバーで、以来、クローバーには四つ葉のものが混じるようになり、人々はこれを“幸福のしるし”と呼んだ」という伝説を紹介。

最近では、生活に関することや事業のための調べものを、図書館で行う皆さんも増えています。

Q : 「住宅を取得したいのだけれど、この土地やその周辺は、以前どのように使用されていたのかを経年変化で知りたい。」

A : 昭和30年代後半より所蔵している『住宅地図』を、年代順に提示し確認いただく。

Q : 「店舗の出店を何ヶ所かで考えているが、それぞれに面している道路の、この30年くらいの交通量の変化を知りたい。」

A : 高速道路を始め、国道、一般道の交通量を複数の観測点で示した『一般交通量調査総括表(道路交通センサス)』(県土木部編)を、該当の年度より提示し確認いただく。

*この系統のものとしては、県内路線価を調査される利用者の方も多くいらっしゃいます。

このように、図書館に寄せられる質問は多岐にわたっています。今回は、主に質問と回答だけをご紹介しましたが、図書館の仕事においては、「どのようなプロセスで回答を導き出したか。」が重要となります。こうした実績は、長年記録として積み重ねられてきましたが、近年は、そのデータベース化に着手し、職員が相互に共通のデータとして活用できる環境作りに取り組んでいます。また、その一部は、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース (<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>)」にも提供していますので、自由にご覧いただくこともできます。

図書館の資料は使われることを待っています。使われることで図書館は成長していきます。どうか、図書館を身近なものとして感じ、生活の一部として位置づけていただくことをお願いいたします。